

朝食準備は、「親の心意気」

子供より早く起きて朝食を準備するのは、「今日一日の頑張りを期待しているよ」を、子供に示す親の愛情表現です。



八代小学校
学校だより

平成 27 年 2 月 17 日 NO.12



温かい地域の心に、感謝

「九州三大祭りの一つである妙見さん」。多くの笠鉾が奉納されます。その中でも、三段の屋根を持つ優雅な「迦陵頻伽」は、八代校区塩屋町の笠鉾です。ぜひ子供たちに見せてやりたいという保存会の方々の陰で、年に一度の寒干しがお体で、一度の技術した。釘一本も使われない子供たちもびっくりに。



ひたむきな努力が
実を結びました。

一月三十一日（土）球磨川河川敷運動公園においで、八代市小学生駅伝大会がありました。本校の二チームを含め二十九チームが参加しました。毎日、朝から早く集まり、五・六年の先生の指導のもと、練習を重ねました。その結果、
Aチーム 優勝
Bチーム 十三位
努力の成果です。

親の愛って？

あるテレビ番組でした。その方は、今年、高校を卒業する息子を持つ母親です。電車です。遠くの工業高校に通学する息子のために、毎日、朝早く起きて弁当づくりを続けられました。思春期真っ只中の息子は、お礼の一言も言いません。それでも、毎日の弁当作りは続きました。息子の弁当の中、紙切れが一枚。「毎日お礼の紙切れが一枚。仕事もがんばるから。」



六十年前に思いをはせました。

八代小学校は、六十年前に代陽小学校から分離する形で現在の場所が開校されました。開校当時は、校舎の周りは田んぼが広がっており、保護者や地域の皆さままで運動場の整地に汗を流されました。二月十六日を当時を振り返る「開校を想う日」と制定し、様々な行事を行っています。今回は、当時の人々が作業する姿を、大きな油絵に描かれた本田侃様と同級生で第十九代本校校長の宮田陽一様をゲストにお迎えし、当時のことを話していただきました。三月には、開校同時に六年生を担任されていた佐藤嘉子先生に授業をお願いしています。